

Red Hat Enterprise Linux にアップグレードする主な理由

1 イノベーションの加速化

Red Hat® Enterprise Linux® は、アプリケーション・ストリーム (AppStreams) という機能によって、プロダクションの安定性と開発者のアジリティを両立できるようになりました。

Red Hat Enterprise Linux リリースのライフサイクルを通じて、アプリケーション・コンポーネントのバージョンが複数配信され、更新されるようになり、プラットフォームや特定のデプロイメントの基本的な安定性に影響を及ぼすことなく Red Hat Enterprise Linux をカスタマイズするための柔軟性が向上しました。

AppStreams コンテンツには、言語ランタイムやコンパイラなどのアプリケーション開発を加速するためのリソースと、データベース、Web サーバー、キャッシュサーバー、ID 管理のようなインフラストラクチャ・リソースが含まれています。

AppStreams コンテンツのアップデートは、Red Hat Enterprise Linux メジャーバージョンのフルサポートフェーズを通じて続きます。コンポーネントの新規バージョンは、重要な新機能や改善点が利用可能になると配信されます。

各ストリームには特定のライフサイクルが定義され、そのライフサイクルはベースのオペレーティングシステム (OS) というよりも、アプリケーションの本来のライフサイクルに近いものになります。また、さまざまなインストールプロファイルを持つ場合があります。これらは特定のユースケースを定義するのに役立ち、システムにインストールされるパッケージを決定するものとなります。

2 手動タスクの最適化

Red Hat Enterprise Linux を使用すると、自動化機能と管理機能によって一貫性のある安定した管理エクスペリエンスが提供され、OS のデプロイと管理が最適化されます。自動化された反復可能なワークフローと Web ベースの Linux 管理を組み合わせることで、次のことが可能になります。

- ▶ 技術的な負担を軽減し、最適化された管理を可能にするために、OS 内で一貫性のある反復可能な設定を確保できます。

- ▶ 手動タスクを最小限に抑え、物理環境、仮想環境、プライベートクラウド環境、パブリッククラウド環境、およびエッジのフットプリントでタスクを一貫して実行します。

- ▶ 豊富な経験なしに従来の複雑なタスクを実行している管理者が持つ、「Linux は難しい」というイメージを軽減します。

主な自動化コンテンツには、次のようなものがあります。

- ▶ Red Hat Enterprise Linux システムロール
 - ▶ 中核となる Red Hat Enterprise Linux システムロール
 - ▶ SAP のシステムロール
 - ▶ Microsoft SQL Server ロール
 - ▶ Identity Management (IdM) コンテンツ
- ▶ Insights によって生成される修復用の Playbook (セキュリティ、パッチ適用、および設定のユースケースを含む)
- ▶ Performance Co-Pilot (PCP) コンテンツ

3 インテリジェントな分析と修復

企業が脅威、停止、予定外のダウンタイムに対応し、ワークロードのパフォーマンスをプロアクティブに改善することは難しいと感じられることがあります。Red Hat Insights は、セキュリティ、パフォーマンス、可用性、スケーラビリティの問題を特定するための分析と修復のガイダンスを提供します。

その設計原則は、分析と問題の特定に必要な最小限のデータを収集することです。この情報は、Red Hat の顧客サポートにおける豊富な経験から導き出されたルールを使用して分析されます。

Red Hat Ansible® Automation Platform を使用して問題に対する修復策を生成できるため、広範囲の問題に対処することができます。

Red Hat Insights は、すべての Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションに含まれています。

4 一貫したエンタープライズ・セキュリティ

Red Hat Enterprise Linux のいくつかの新機能は、セキュリティとコンプライアンスの要件に対応するのに役立ちます。

セッション記録は、任意のターミナルセッションのすべてのコマンドライン入力を記録するため、システムがいつ、どのように使用されたかを識別するのに役立ちます。また、特定のユーザーやグループ用に設定することが可能で、使いやすくレビュー可能な監査セッションを作成できます。

カーネルライブパッチは、Red Hat Enterprise Linux のマイナーリリースで利用でき、再起動せずに重要なカーネル・セキュリティ・パッチを適用できます。

Transport Layer Security (TLS)、インターネット・プロトコル・セキュリティ (IPsec)、Domain Name System Security Extensions (DNSSEC)、Kerberos、Secure Shell (SSH) など、サブシステムに適用可能な暗号化方式を定義するために、システム全体の暗号化ポリシーを利用できます。

セキュリティポリシーは、さまざまな分野におけるコンプライアンスの要件を定義します。Security Content Automation Protocol (SCAP) は、特定のセキュリティ基準への準拠についてレポートし、ポリシーへの準拠を自動化する方式です。Red Hat Enterprise Linux は、非準拠のシステムを修復できる、改良型のオープンソース・セキュリティ・コンプライアンス・ソリューション (OpenSCAP) ツールを提供します。

5 確実なアップグレード

Leapp は、インプレース・アップグレードの実行を支援し、Red Hat Enterprise Linux のあるメジャーバージョンから別のメジャーバージョンへの移行を可能にします。Red Hat Enterprise Linux 7 を使用している場合は、サーバーを再インストールすることなく、バージョン 8 へのアップグレードや、バージョン 8 から 9 へのアップグレードが可能です。

このアップグレードにより、強化されたインストールのセキュリティプロファイルのほか、最新の拡張機能、修正、パッチにアクセスできます。

Leapp を使用すると、最新の Red Hat Enterprise Linux バージョンに移行するための自動化できる単一のパスが得られます。システム、カスタムリポジトリ、およびサードパーティ製アプリケーションに付帯する元のサブスクリプションは保持されます。

6 IT ライフサイクル・プランニングの強化

従来、企業は日常的な業務の中断を避けるため、システムへの変更を減らし、アップデートを回避してきました。ソフトウェアが古いほど、時間の経過とともにセキュリティや安定性に関連したリスクが高まるため、企業はパフォーマンス、拡張、および管理性を強化する新機能を活用する機会を逃す可能性があります。

Red Hat では予測可能なリリースサイクルを公開しており、メジャーリリースには **10 年間のサポート**、一部のマイナーリリースには 2 年間のサポートを提供しているため、企業の長期的な成功に向けた計画策定に役立っています。

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションは、柔軟で安定したセキュリティ重視のライフサイクルオプションを提供し、企業がサポート対象の複数のバージョンから選択し、システム機能を維持し、陳腐化を回避できるようにします。

7 管理の効率化

コマンドライン・インタフェース (CLI) は、システム管理用のグラフィカルツールや Web ベースのツールの使用に慣れていない人にとっては難しいと感じられるかもしれませんが、Red Hat Enterprise Linux にはデフォルトで Web コンソールが付属しており、Web ブラウザーからシステムを管理するための軽量で使いやすいインタフェースを提供します。

管理者は Web コンソールを使用して、以下に挙げるものの管理などのタスクを効率的に実行できます。

- ▶ ユーザーとグループ
- ▶ ソフトウェアパッケージとリポジトリ
- ▶ システムサービス
- ▶ Red Hat サブスクリプション
- ▶ ネットワーキング (ファイアウォールを含む)
- ▶ パフォーマンスの監視と調整
- ▶ ストレージ管理

Web コンソールを使用して、ログを表示したり、ドメインに参加したり、サーバーへのコンソールを取得したりすることもできます。

Web コンソールの機能を拡張すると管理できるものには、以下が含まれます。

- ▶ KVM ベースの仮想マシン
- ▶ Red Hat Enterprise Linux コンテナツールを使用するコンテナ
- ▶ パブリッククラウド・プロバイダーとプライベートクラウド・プロバイダー向けの Red Hat Enterprise Linux イメージのビルドとデプロイ

Web コンソール内で、Leapp を使用してシステムを Red Hat Enterprise Linux の次のメジャーバージョンにアップグレードするための準備ができます。アップグレード前のレポートは、システムを準備するための明確な指示のほか、ワンクリックの修復を可能にすることもあります。

8 コンテナ対応のプラットフォーム

Red Hat Enterprise Linux 上に構築されるアプリケーションとコンテナの可搬性は、企業が一貫性を維持し、進化する変革とイノベーションの目標を達成する上で役立ちます。

Red Hat Enterprise Linux には、エンタープライズ・ライフサイクルで Linux コンテナを作成し、実行し、管理するためのコンテナツールが含まれています。

ツールに含まれるものは次のとおりです。

- ▶ Buildah - Open Containers Initiative (OCI) に準拠したイメージをビルドし、変更するためのツールです。
- ▶ Podman - コンテナと Pod を実行し、管理し、デバッグするためのデーモンレスのツールで、Docker のような構文を使用できます。
- ▶ Skopeo - コンテナイメージの検査、署名、転送のためのツールです。

root 以外のユーザーでもコンテナをサービスとして実行する systemd の機能強化によって、アプリケーションをより安全に、よりセキュリティを重視した可搬性のある方法で実行できます。

Podman は、新しいバージョンのコンテナイメージが利用可能かどうかを検出し、イメージを自動的にダウンロードし、コンテナを再デプロイすることができます。また、更新されたコンテナが起動に失敗した場合の自動ロールバックにも対応しており、アプリケーションに新たなレベルの信頼性をもたらします。

Podman では、Red Hat OpenShift® などのより高度なオーケストレーション環境への移行を支援するために、ローカル Pod とコンテナの定義を取得できます。



Red Hat について

Red Hat は、[受賞歴のあるサポート](#)、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

アジア太平洋

+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア

1800 733 428

インド

+91 22 3987 8888

インドネシア

001 803 440 224

日本

0120 266 086
03 5798 8510

韓国

080 708 0880

マレーシア

1800 812 678

ニュージーランド

0800 450 503

シンガポール

800 448 1430

中国

800 810 2100

香港

800 901 222

台湾

0800 666 052

f fb.com/RedHatJapan
 t twitter.com/RedHatJapan
 in linkedin.com/company/red-hat